

青年部教学試験(一級)問題

問一 「観心本尊抄」(背景・大意、第1章～第10章) から問いに答えなさい。

- 一、本抄が執筆された年月日、および正式な題号を書きなさい。
- 二、第1章で、日蓮大聖人は一念三千の典拠として、**イ** 第五の文の一節を掲げられています。

「夫れ に十法界を具す一法界に又十法界を具すれば百法界なり一界に三十種の世間を具すれば百法界に即三千種の世間を具す、此の三千・一念の心に在り若し心無んば而已のみなけ介爾も心有れば即ち を具す乃至所以ゆゑに称して不可思議境と為す意こころ此に在り」

- イ、**イ** には書名が入ります。正しい言葉を書きなさい。
- ロ、 に入る正しい言葉を書きなさい。
- 三、第4章の御文について答えなさい。

「天台の難信難解に二有り一には の難信難解二には観門くわんもんの難信難解なり」

- イ、 に入る正しい言葉を書きなさい。
- ロ、傍線口「観門の難信難解」は、ここでは具体的にどのようなことを指していますか。説明しなさい。
- 四、第5章で大聖人は、「我が己心を観じて十法界を見る是を と云うなり、譬えば他人の六根を見ると雖も未だ自面の六根を見ざれば自具の六根を知らず に向うの時始めて自具の六根を見るが如し」と仰せです。 に入る正しい言葉を書きなさい。
- 五、第8章で、私たちの心に六道が具わっていることを述べた御文を書きなさい。
- 六、第10章で大聖人は、人界に仏界を具足していることの現証として三つの例を挙げられています。そのうちの一つを書きなさい。

問二 「観心本尊抄」(第11章～第16章) から問いに答えなさい。

- 一、第13章で「但し諸経と法華との相違は経文より事起つて分明なり未顕と已顕と証明と舌相と の成不と始成と と等之を顕わす」と、法華経と爾前経との間の根本的な相違を示されています。 に入る正しい言葉を書きなさい。
- 二、第14章についての文章を読み、イ、ロの問いに答えなさい。

大聖人は「夫れ仏滅後に至って一千八百余年・三国に経歴して但三人のみ有つて始めて此の正法を覚知せり」と仰せになり、竜樹や天親は正法を心の中に知っていたが、外に向かつて言わなかったと述べられています。

- イ、傍線イ「但三人」とは誰のことか、名前を書きなさい。
- ロ、傍線ロの理由を本抄の趣旨に沿って書きなさい。
- 三、第15章の「詮ずる所は に非ずんば有情の成仏・木画二像の本尊は有名無実なり」の御文の に入る正しい言葉を書きなさい。
- 四、し 釈尊のような偉大な仏が凡夫の劣心に具わることが信じられない、との疑問に対する答えとして、大聖人は第16章で「受持即観心」の法門を明かされました。その御文を書きなさい。

- 五、「受持即観心」によって己心に顕れる四聖について、大聖人は第16章で法華経の経文を引用して示されています。次のイ～ハの御文が、それぞれの経文と対応しているか、後ろの〈経文〉1～3から選び、番号を書きなさい。
- イ、我等が己心の声聞界なり ロ、我等が己心の菩薩等なり ハ、我等が己心の釈尊は五百塵点乃至所顕の三身にして無始の古仏なり
- 1、「然るに我実に成仏してより已來・無量無辺百千万億那由佉劫なり」
- 2、「無上宝聚・不求自得」
- 3、「我本菩薩の道を行じて・成ぜし所の寿命・今猶未だ尽きず・復上の数に倍せり」

(問三以降は裏へ続く)

問三 「観心本尊抄」(第17章〜第31章) から問いに答えなさい。

一、第20章から第25章では、釈尊をはじめ三世十方の仏が説こうとした最も大切な教えがどこに説かれているかを「五重三段」を通して明かされています。

イ、「五重三段」のそれぞれの正宗分を述べなさい。

ロ、大聖人は「在世の本門と末法の始は一同に純円なり但し彼は [] 此れは種なり彼は一品二半此れは但 [] なり」と仰せになっています。 [] に入る御文を書きなさい。

二、第27章では、寿量品の「良医病子の譬え」に説かれている「遣使還告」「是好良薬」について論じられています。それぞれが示している、末法弘通の「人」と「法」を書きなさい。

三、次の御文の [] に入る正しい言葉を書きなさい。

「此の四菩薩 [] を現する時は賢王と成つて愚王を誠責し撰受を行ずる時は僧と成つて [] を弘持す」(第29章)

「天晴れぬれば地明かなり [] を識る者は世法を得可きか」(第30章)

[] を識らざる者には仏・ [] を起し五字の内に此の珠を裏み末代幼稚の頸に懸けさしめ給う」(第31章)

問四 「兄弟抄」から問いに答えなさい。(①〜⑦の数字は、「大白蓮華」6月号の教材に基づいています)

一、(兄弟抄①) 冒頭で言及されている、法華経と「三世の諸仏」「十方の仏陀」の関係を、本抄で仰せの趣旨に沿って述べなさい。

二、(兄弟抄②) 本抄で「一眼の亀」「須弥山を吊り上げる蓮の糸」の譬えを通して、「値うことは難」「あひがたし」とされた「人」とは、どのような人ですか。本抄で仰せの趣旨に沿って答えなさい。

三、(兄弟抄③) 本抄では、「此は第六天の魔王が智者の【1】善人をたほらかすなり、法華経第五の巻に『悪鬼其の【2】』と説かれて候は是なり」と喝破されています。さらに、たとえ等覺の菩薩であっても妙覺の功德を妨げてしまうのは、「元品の [] と申す大悪鬼」と仰せです。【1】【2】の共通の趣旨の言葉を書きなさい。また、 [] に入る正しい言葉を書きなさい。

四、(兄弟抄④) 本抄では、池上兄弟が受けている難の意味について、宿命転換の法理をふまえて、信心の錬磨であることを示され、「がうじやうにはがみをしてたゆむ心なかれ、例せば日蓮が (ロ) がごとく・すこしも・をつる心なかれ」と呼びかけられています。

イ、傍線イについて、本抄では兄弟が懸命に法華経を信じてきたので、どのようなようになったと仰せですか。本抄の趣旨に沿って答えなさい。

ロ、(ロ) に入る趣旨を書きなさい。

五、(兄弟抄⑥) 本抄後半で「日蓮が身に当るのみならず門家の明鏡なり謹んで習い伝えて未来の資糧とせよ」として引用された、天台大師の文を書きなさい。

六、(兄弟抄⑦) 大聖人は、兄弟たち、夫人たちが悪縁に紛動されず、苦難を乗り越えるために、「設ひ・いかなる・わづらはしき事ありとも夢になして只 [] の事のみさはくらせ給うべし」と教えられています。 [] に入る正しい言葉を書きなさい。

問五 「日頭宗を破す」から問いに答えなさい。

一、「いかなる大善をつくり法華経を千万部読み書写し一念三千の観道を得たる人なりとも [] をだにも・せめざれば得道ありがたし」の御文の [] に入る正しい言葉を書きなさい。

二、日頭が、世界広宣流布を推進する創価学会の破壊を企てたことは、「五逆罪」の何にあたるか、その大罪の名前を書きなさい。

三、かつて、軍国主義下にあつて、日蓮正宗と創価学会は、それぞれ神札に、どのように対処したか、書きなさい。

四、日頭宗の誤った血脈観を、御書の御文を用いて破折しなさい。

五、僧侶を呼ばない葬儀では故人が成仏しない などと言っている日頭宗の邪義を、大聖人の仏法の法理に基づいて破折しなさい。